



2006年  
9月号

# マックスシールプレス

目次

- p1. 異健康フォーラム
- p2. 部署紹介 院内・地域連携室  
病氣アラカルト 慢性肺炎

## ～異からの提案 saving your life～ 家族のために 自分のために 健康に生きる



【 第一回 異健康フォーラム 異理事長挨拶 】

### 異健康フォーラム

医療法人マックスシールは、「病める人は元よりそれに関わる人の生命を守り、人生を尊び健康で心豊かな社会生活を育むことにある。」を理念とし、地域の皆様とのかかわり合いを大切に日々診療に携わっております。この理念推進のための社会活動の一つとして「異健康フォーラム」があります。

「～異からの提案 saving your life～ 家族のために 自分のために 健康に生きる」をメインテーマとし、今年1月28日池田市民文化会館において第1回目を開催致しました。内容は、2部構成で、第1部は健康相談・介護相談、糖尿病のミニ講習会や足浴・脳年齢測定・骨密度測定などの「体験コーナー」を行いました。多数の参加を頂き、会場は満員となりました。そのため、時間内に機器の体験をして頂く事が出来ず誠に申し訳ありませんでした。第2部は、医師による「市民公開講座」で、胃の健康について・心臓の健康について・頭皮(髪)の健康について・私の健康法の4つの講演を行いました。

「良かった」「また、開催してほしい」などのご意見を多数いただくことができました。誠に有り難うございました。今回は、高齢化社会を反映し老化防止を目的とした“骨”と“脳”の健康講座を実施いたします。前回より講演時間を延長し各30分間とさせて頂きました。私の健康法として、池田市社会福祉協議会会長の藤井様より貴重な体験や健康法をお話頂く予定です。

お時間がありましたら多くの方にご参加頂きたいと願っております。皆様のご来場を職員一同、心よりお待ちしております。

### 第二回 異健康フォーラム

『第2回 異健康フォーラム開催』のご案内

日時；平成18年10月7日(土)12:30～16:00

場所；池田市民文化会館

内容；

PM0:30～PM2:00

体験コーナー(脳年齢・骨密度・体脂肪・ストレス  
チェック等の各種測定)、健康相談、介護相談等

PM2:00～PM4:00 市民公開講座

1. 腎臓の健康について ～頻尿のお話～

金川賢司医師

2. 脳の健康について ～ボケないために～

木村文治医師

3. 私の健康法

池田市社会福祉協議会 会長 藤井一三



【 第一回異健康フォーラム 左；健康ミニセミナー 右；講演会場 小ホール 】

# 部署紹介

## 院内・地域連携室 田之頭 亘



本年5月巽今宮病院が開院となりました。療養型・開放型(一般病床)と回復期リハビリをメインとした病院です。医療法人マックシールは、巽老健施設・巽病院(急性期)・巽今宮病院(療養型、リハビリ)の3施設を有する事となりました。「マックシール プロジェクト」の骨格は、ほぼ完成したものと考えております。池田市内・箕面市内・大きくはこの北摂地区の基幹病院(石橋75床 老健120床 今宮110床 合計305床)として十分の役割を担う施設となりました。それらの点を結ぶ線の役割が今後重要であると考え、昨年9月「院内・地域連携室」として独立致しました。

顧客、すなわち、地域の皆様や患者さまとのつながりを大切に、それぞれを連携しマックシールの施設を有意義にご利用頂けることを主眼と考えております。

当施設への理解を十分に頂くために、院外広報誌「マックシールプレス」の発行、ホームページの充実(巽病院アラカルト)、リハビリ施設の開放として「ヘルスプロモーション」の開催、地域の開業医の先生方との連携を進めるため「開業医パンフレット」の作成を行いました。

地域の皆様の健康増進や病気への理解を深めるために、「巽健康フォーラム」も開催しています。また、当施設において亡くなられた患者様を全職員で追悼するため、「合同慰霊祭」を昨年より実施させて頂き、たくさんのご参加を賜りました。誠に有り難うございました。

院外活動だけではなく院内のコミュニケーションを深めるため、各部署の業績報告会として院内発表会を、接遇・職員の資質向上のため月一回の院内研修会なども行っています。

院内院外を問わず、マックシールの施設を皆様にご理解いただき、「急性期から慢性期」・「リハビリから社会復帰へ」・「老健から在宅へ」などの切れ目のない医療を提供できるよう連携に努めたいと考えております。

院内・地域連携室のモットーは「地域のための本当の連携と貢献」とし、今後とも日々精進していきたいと考えております。

## 病気アラカルト

### 慢性膵炎

### 内科 井上俊宏

アルコールにより肝臓病を患うことはよく知られていますが、慢性膵炎をきたすことはあまり知られていません。

日本における慢性膵炎の成因としてはアルコール性が50~60%と最も多く、約42000人の患者さんがいると言われています。これはアルコール消費量の増加と一致した動きとも言われています。慢性膵炎の自覚症状としては、心窩部痛、背部痛が主だったものですが、膵機能の低下も問題になります。膵臓の機能には①外分泌、②内分泌の2つがあります。①外分泌とは消化液の一つで蛋白質を分解する酵素を含んだ膵液の分泌であり、②内分泌とはホルモン(糖尿病で有名なインシュリンなど)の分泌です。そのため、膵機能が低下すると消化不良や糖尿病などの二次的な合併症も来す可能性もあります。さらに飲酒を続けると急激な腹痛や背部痛と伴う慢性膵炎急性増悪(急性膵炎)を起こす場合があります。

急性膵炎は慢性膵炎と異なり命に関わることも少なくない疾患であることはあまり知られていません。慢性・急性膵炎の予防・治療の基本は、まずは断酒です。しかし、一旦損なわれた膵機能の改善は得られず現状よりの悪化を防ぐのが目的です。また、飲酒される方の中には慢性膵炎による膵機能低下からくる糖尿病を併発し、自覚症状のない方もあります。

飲酒をされる方で糖尿病をお持ちの方にも禁酒あるいは減酒を勧めます。